



令和 6 年 9 月 6 日

九州地方整備局

スマートインターチェンジの新規事業化、準備段階調査着手の箇所を決定

九州管内で新たに「久留米南スマートインターチェンジ（仮称）」が事業化され、「新宮スマートインターチェンジ（仮称）」が準備段階調査に着手します。

○九州管内の新規事業化箇所

- ・ 名 称：久留米南スマートインターチェンジ（仮称）
- ・ 検討位置：福岡県久留米市
- ・ 路線名：九州縦貫自動車道鹿児島線（久留米 I C～広川 I C間）

○九州管内の準備段階調査着手箇所

- ・ 名 称：新宮スマートインターチェンジ（仮称）
- ・ 検討位置：福岡県糟屋郡新宮町
- ・ 路線名：九州縦貫自動車道鹿児島線（古賀 I C～福岡 I C間）

【添付資料】

- ・ 別紙－１ スマート I C の進め方／九州のスマート I C 箇所図
- ・ 別紙－２ 令和 6 年 9 月 6 日 国土交通省道路局記者発表資料「スマートインターチェンジ等の高速道路会社への事業許可および準備段階調査着手について」

【問い合わせ先】

九州地方整備局 道路部道路計画第一課

課長

上田 晴気（内線 4 2 1 1）

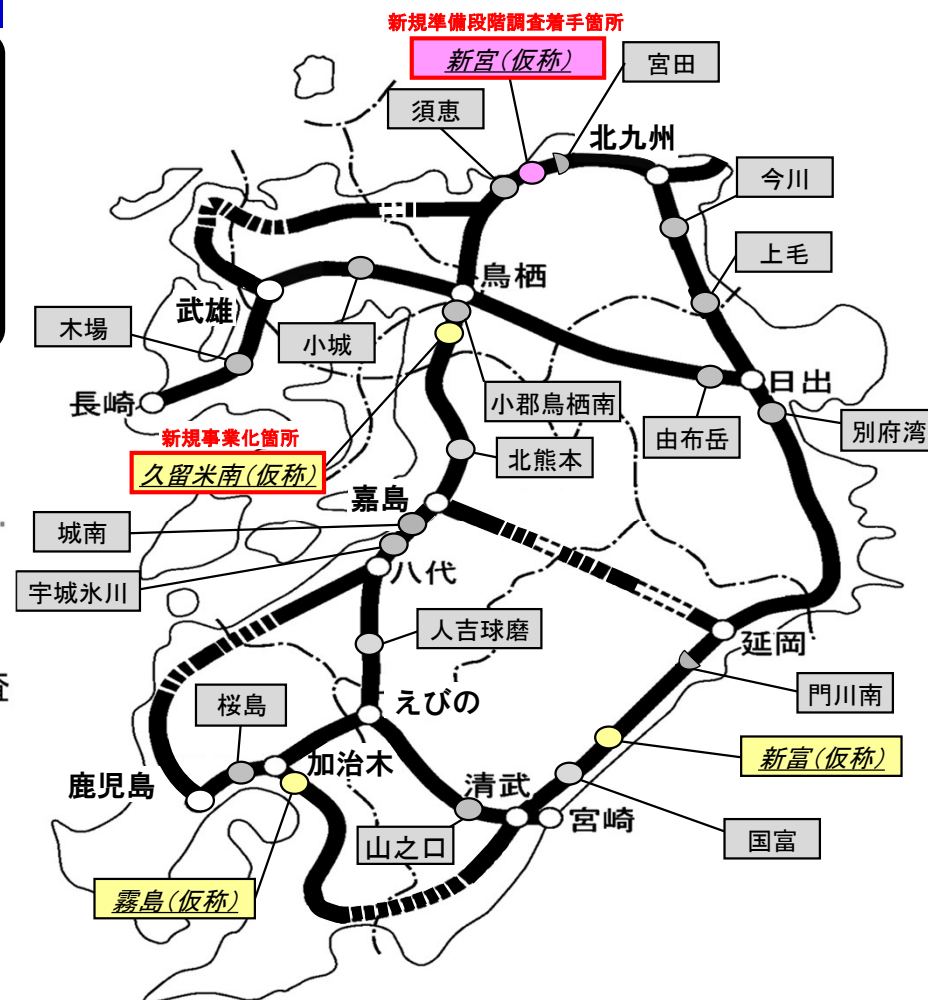
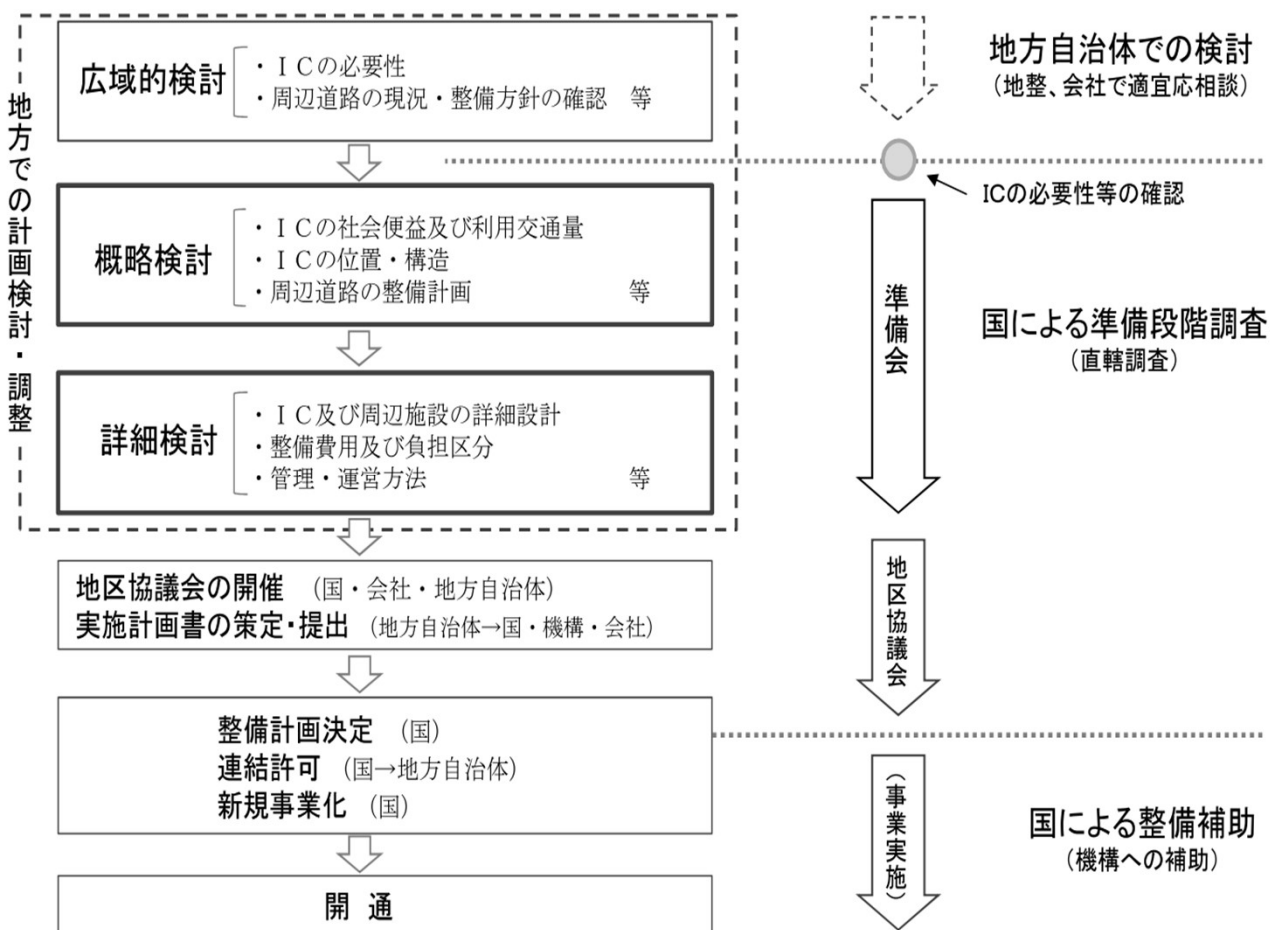
建設専門官

上野 巧（内線 4 2 1 7）

電話番号： 092-471-6331（代表） 092-476-3529（直通）

スマートインターチェンジの進め方

- スマートICの準備段階（地方での計画検討・調整段階）において、国として必要性が確認できる箇所等について、箇所を選定し、国が調査（直轄調査）を実施（準備段階調査）。
- 準備段階調査における準備会での検討や調整が整い、関係機関で構成される地区協議会で決定された実施計画書が提出された箇所につき新規事業化。



【凡例】		
	開通済	17箇所
	事業中	3箇所
	準備段階調査	1箇所
(令和6年9月6日時点)		



令和6年9月6日
道路局高速道路課

スマートインターチェンジの 高速道路会社への事業許可および準備段階調査着手について

国土交通省は、スマートインターチェンジ6箇所について、本日付で高速道路会社へ事業許可を行いました。

あわせて、新たにスマートインターチェンジ4箇所の準備段階調査に着手することとしましたのでお知らせいたします。

別添①：スマートインターチェンジの検討・整備について

別添②：スマートインターチェンジの高速道路会社への事業許可について

別添③：スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添④：スマートインターチェンジの新規準備段階調査着手箇所について

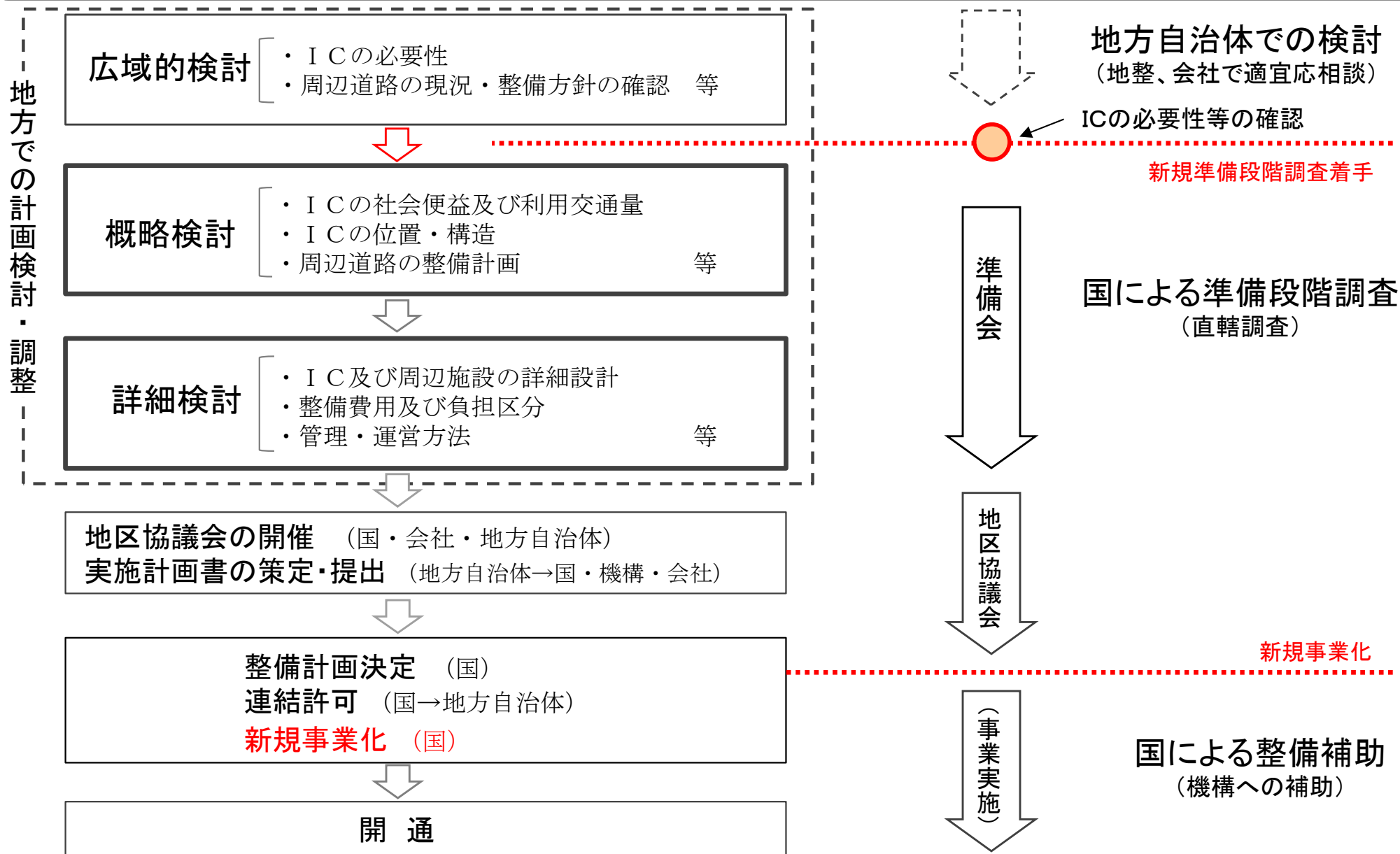
参 考：スマートインターチェンジの整備

<問い合わせ先>

道路局 高速道路課 谷口、清水

代表：03-5253-8111 （内線：38362、38353） 直通：03-5253-8500

- スマートICの準備段階(地方での計画検討・調整段階)において、国として必要性が確認できる箇所等について、箇所を選定し、国が調査(直轄調査)を実施(準備段階調査)。
- 準備段階調査における準備会での検討や調整が整い、関係機関で構成される地区協議会で決定された実施計画書が提出された箇所につき新規事業化。



スマートインターチェンジの高速道路会社への事業許可

別添②

スマートインターチェンジ※¹の新規事業化箇所

スマートインターチェンジの名称(仮称)※ ²	連結位置	路線名	事業主体
もりや 守谷SA	茨城県もりや 守谷市	常磐自動車道(かしわ柏IC～やわら谷和原IC間)	NEXCO東日本 守谷市
つちうら 土浦	茨城県つちうら 土浦市	常磐自動車道(さくらつちうら桜土浦IC～つちうらきた土浦北IC間)	NEXCO東日本 土浦市
えなきょう 恵那峡SA	岐阜県えな 恵那市	中央自動車道西宮線(なかつがわ中津川IC～えな恵那IC間)	NEXCO中日本 恵那市
おおやまだ 大山田PA	三重県くわな 桑名市	近畿自動車道名古屋亀山線(くわなひがし桑名東IC～くわな桑名IC間)	NEXCO中日本 桑名市
やすぎ 安来	島根県やすぎ 安来市	一般国道9号(安来道路)(やすぎ安来IC～ひがしいずも東出雲IC間)	NEXCO西日本 安来市
くるめみなみ 久留米南	福岡県くるめ 久留米市	九州縦貫自動車道鹿児島線(くるめ久留米IC～ひろかわ広川IC間)	NEXCO西日本 久留米市

※¹ スマートインターチェンジとは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、専らETCを搭載した車両が通行することを目的としたインターチェンジです。

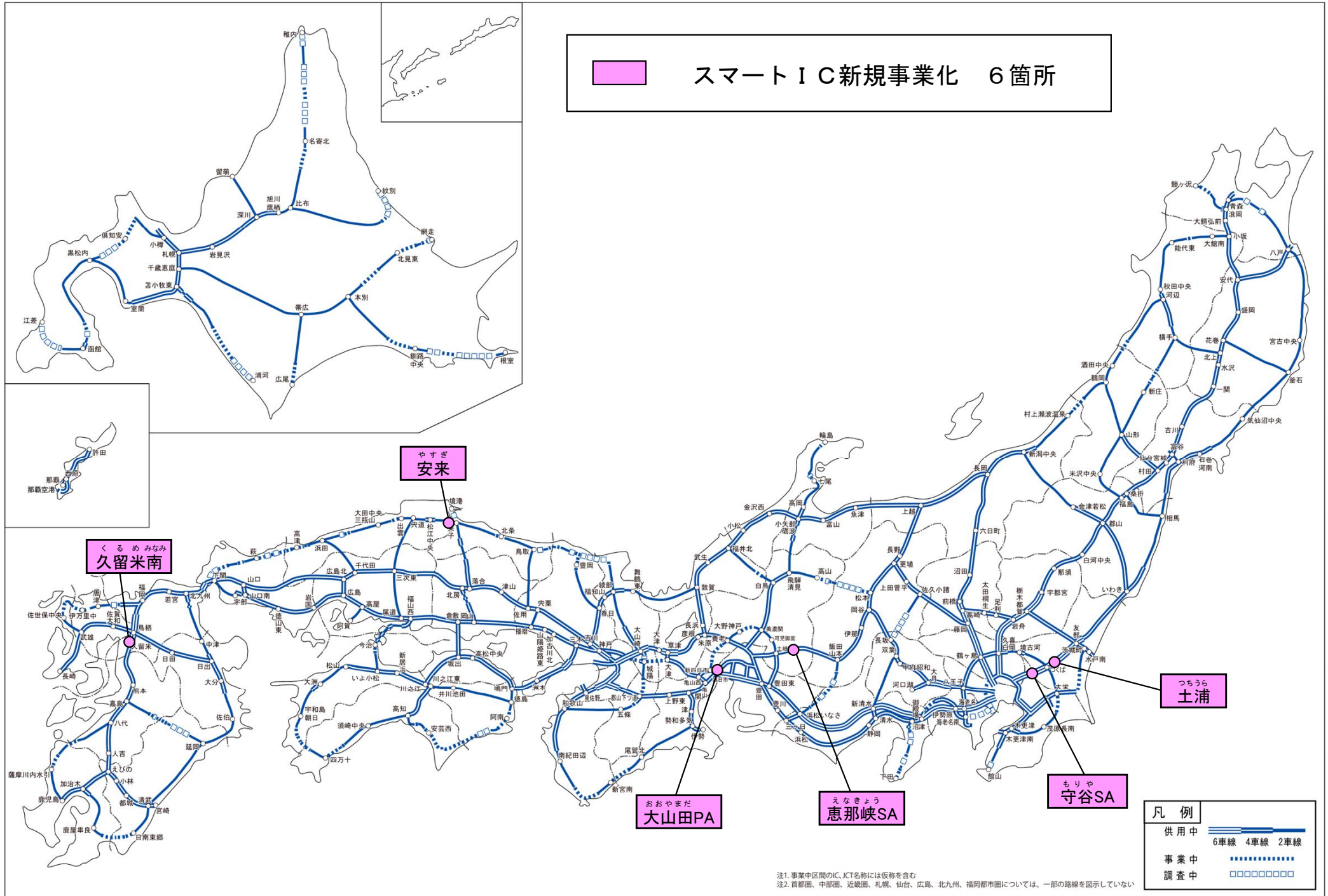
※² スマートインターチェンジの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定されます。

スマートインターチェンジ新規事業化箇所図

別添②



スマートIC新規事業化 6箇所



スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③

■常磐自動車道 守谷SAスマートIC（仮称）

<概要>

路線名：常磐自動車道

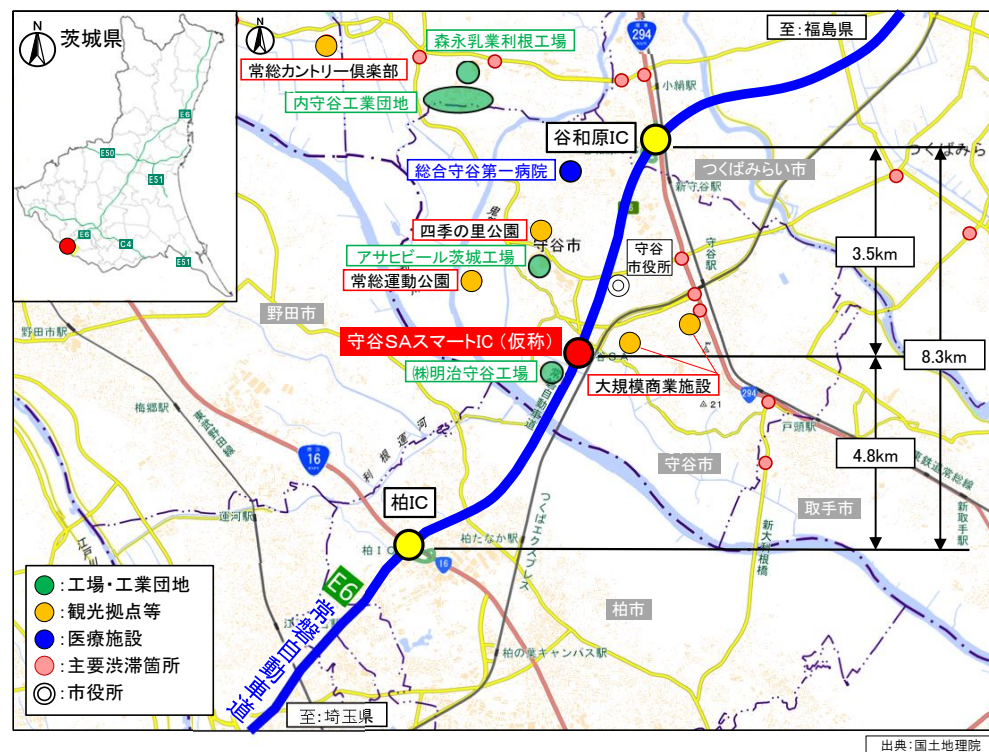
設置場所：茨城県守谷市
(柏IC～谷和原IC間)

接続形式：SA・PA接続型

形式：全方向（4/4）

運用形態：全車種 24時間

<位置図>



整備効果 地域産業の活性化

- ・守谷SAスマートIC（仮称）の整備により、「アサヒビール(株)茨城工場」や「(株)明治守谷工場」から東京方面への所要時間が短縮し、地域産業拠点における輸送業務の効率化による生産性向上が期待される。
- ・周辺の土地区画整理事業計画と併せ、産業の活性化を先導的に図るための企業誘致及び新たな産業の創出に向けた土地利用を推進する。



整備効果 観光施設へのアクセス性・利便性向上

- ・守谷SAスマートIC（仮称）の整備により、常総運動公園までの所要時間が東京方面（柏IC）から6分短縮し、利用者のアクセス性・利便性が向上する。
- ・守谷SA周辺では、（仮称）守谷市総合公園や、ヤクルトスワローズ二軍施設の移転が計画されており、更なる集客が期待される。



スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③

■常磐自動車道 土浦スマートIC（仮称）

<概要>

路線名：常磐自動車道

（桜土浦IC～土浦北IC間）

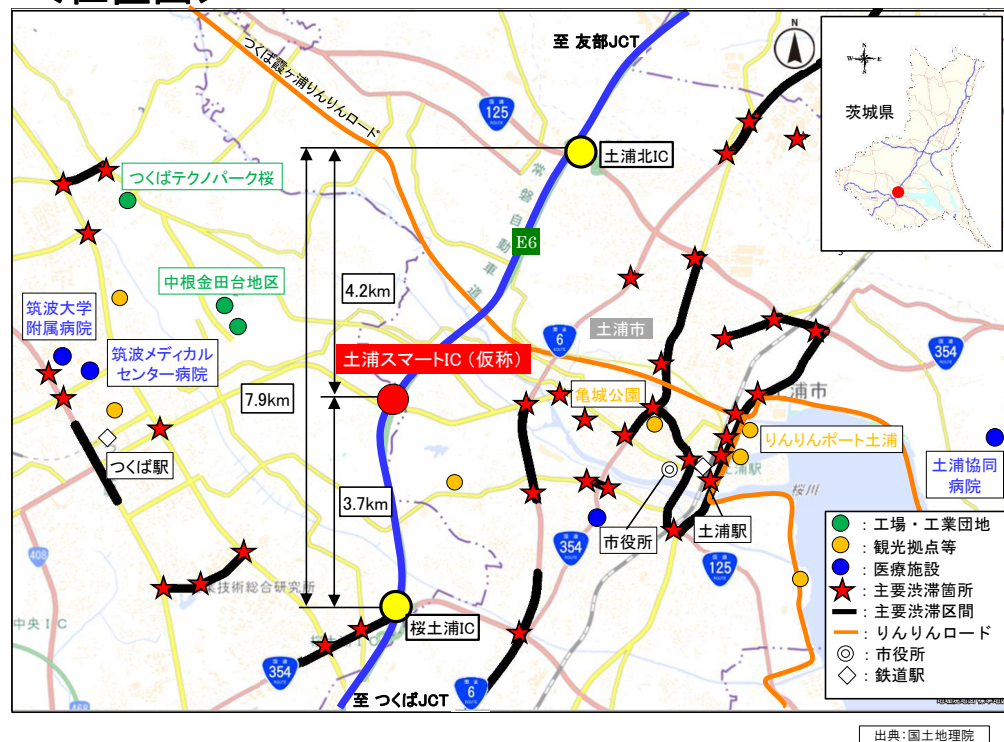
設置場所：茨城県土浦市

接続形式：本線直結型

形式：全方向（4/4）

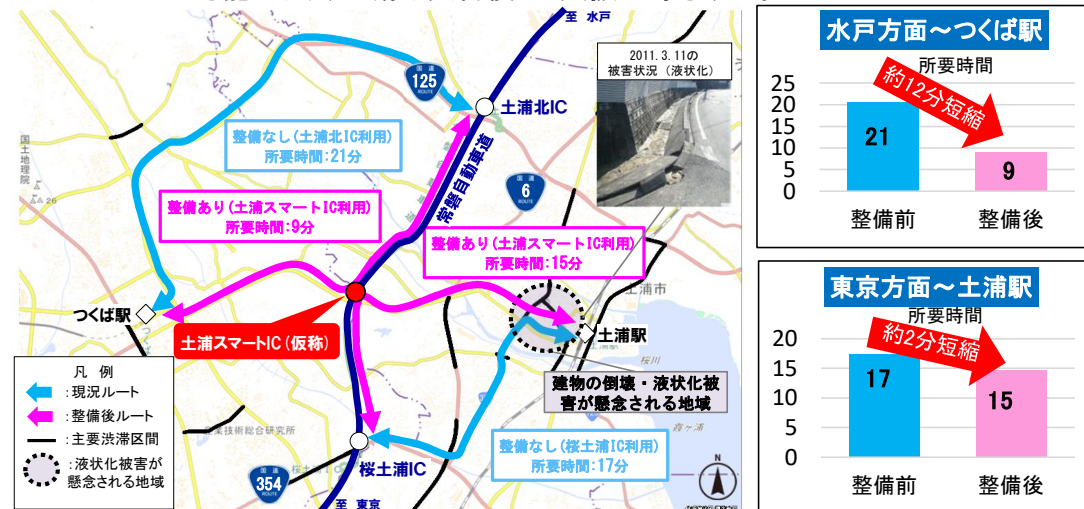
運用形態：全車種 24時間

<位置図>



整備効果 中心市街地へのアクセス向上と防災機能の強化

- ・スマートICの整備により、高速道路と「土浦駅・つくば駅」の中心市街地とのアクセスでは、渋滞箇所を回避したアクセスが可能となり、所要時間が短縮し、住民の利便性向上及び事業者の生産性向上に寄与する。
- ・震災時に、高速道路から建物の倒壊や液状化被害が懸念される地域へ最短距離でのアクセスが可能となり、円滑な災害復旧・支援に寄与する。



※所要時間：令和3年度全国道路・街路交通情勢調査旅行速度より算出。

整備効果 物流の定時性向上・物流の効率化の支援

- ・スマートICの整備により、高速道路から物流施設が立地する中根金田台地区や土浦市上高津への所要時間が短縮する。また通過する信号交差点数も減少し、物流の定時性向上・物流の効率化が期待される。



※所要時間：令和3年度全国道路・街路交通情勢調査旅行速度より算出。

スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③

■中央自動車道 恵那峡SAスマートIC（仮称）

<概要>

路線名：中央自動車道西宮線
（中津川IC～恵那IC間）

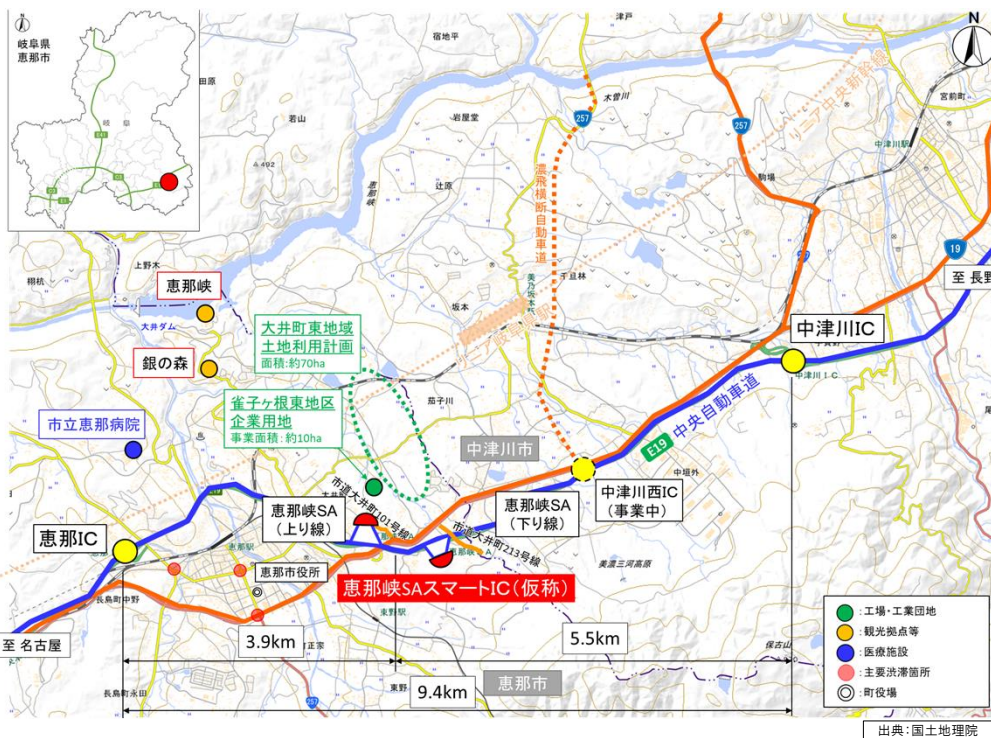
設置場所：岐阜県恵那市

接続形式：SA・PA接続型

形式：全方向（4/4）

運用形態：全車種 24時間

<位置図>



整備効果 物流の効率化による産業振興

・スマートICの整備により、市街地の混雑区間を回避した高速アクセスが可能となるため、恵那市内物流企業の名古屋方面[瑞浪IC]への所要時間が最大8分短縮することにより、輸送時間短縮 及び コスト削減による物流の効率化が期待される。



整備効果 観光の活性化

・スマートICの整備により、東京方面から主要観光地までの新たな観光ルートが形成され、交通状況に応じた複数経路選択が可能となり、渋滞緩和によるアクセス性の向上が期待される。

・また、恵那峡を拠点とした60分圏域人口が増加し、観光入込客数の増加による観光の活性化が期待される。



スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③

■東名阪自動車道 大山田PAスマートIC（仮称）

<概要>

路線名：近畿自動車道名古屋亀山線

（桑名東IC～桑名IC間）

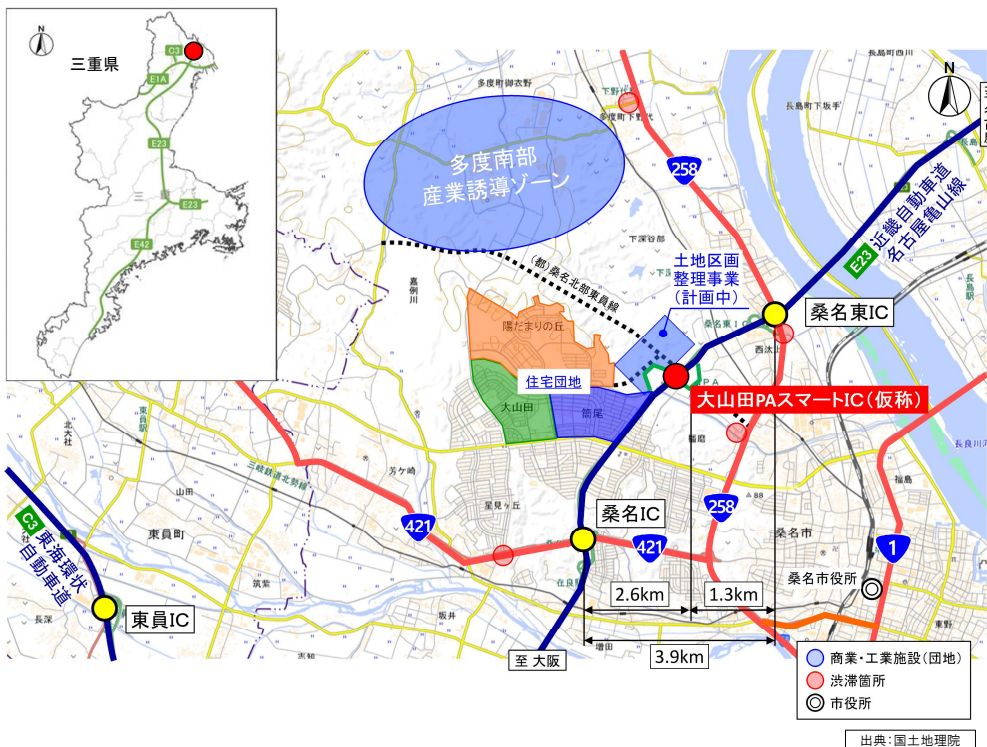
設置場所：三重県桑名市

接続形式：SA・PA接続型

形式：全方向（4/4）

運用形態：全車種 24時間

<位置図>



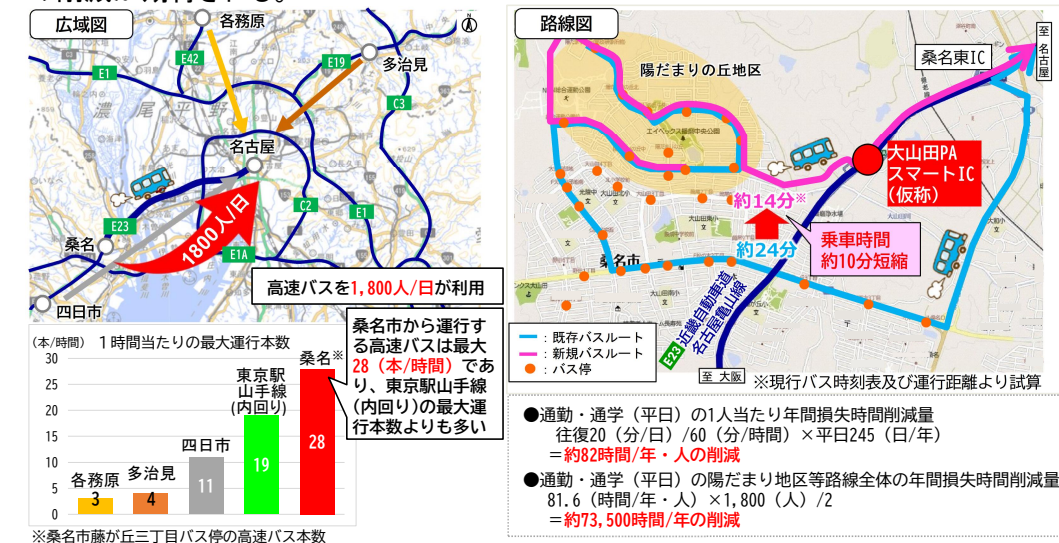
整備効果 産業活動の支援

・スマートICの整備により、産業誘導ゾーンから高速道路ICまでの所要時間が約4～8分短縮される。産業誘導ゾーンから高速道路ICへのアクセス性が向上することで、計画中の企業立地が完了した場合、約5,000人の雇用増加、約12.6億円の税収増が期待される。



整備効果 地域活性化

・スマートICの整備により、新規高速バス路線が開設された場合、陽だまりの丘地区から高速道路ICへの運行時間が約10分短縮されることで、1人あたり年間損失時間約82時間の削減が期待される。



スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③

■安来道路 安来スマートIC(仮称)

<概 要>

路線名：一般国道9号（安来道路）

（安来IC～東出雲IC間）

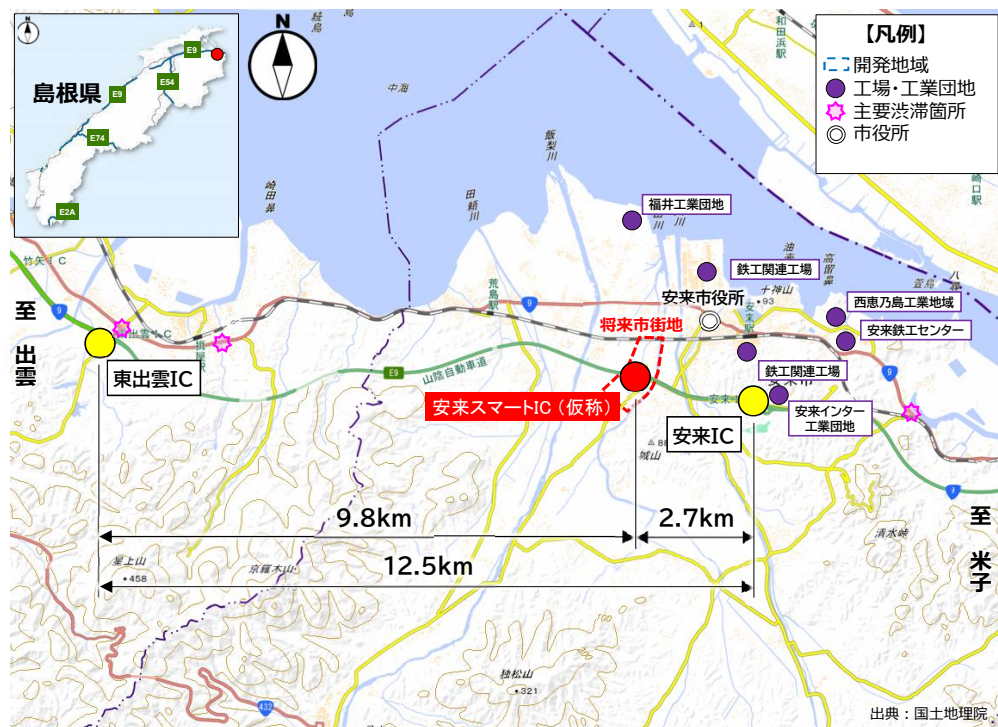
設置場所：島根県安来市

接続形式：本線直結型

形式：全方向（4/4）

運用形態：全車種 24時間

<位置図>



整備効果 産業活性化の支援

- ・スマートICの整備により、中心市街地から高速道路へのアクセス性が向上し、流通効率化に寄与することが期待される。
- ・スマートICの整備と合わせた新たな事業用地の整備を計画しており、各種産業において企業立地の促進が期待される。



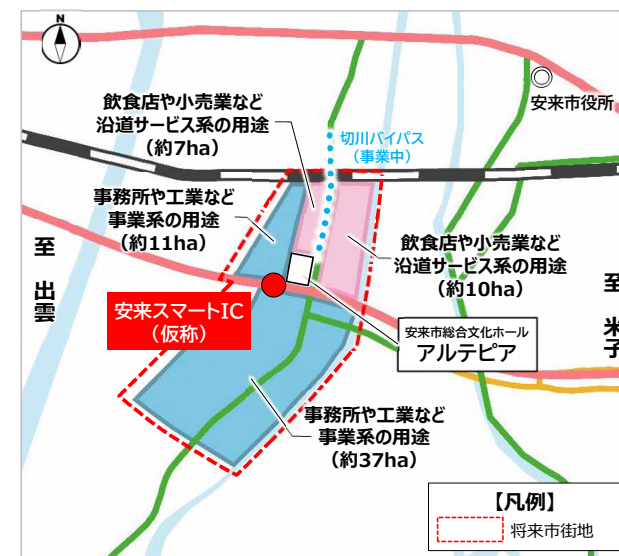
■安来道路へのアクセス性向上効果



- ・コロナ収束とともに**流通需要が高まっており、事業用地が不足している。**
 - ・新たな**事業用地**の選定には**高速道路へのアクセス性を重要視**している。
- （資料：物流企業 ヒアリング結果（R5.3））

整備効果 アクセス性向上によるまちづくりの支援

- ・現在整備を進められている切川バイパスの周辺は、安来市最大級の新たな産業系用途に追加する方針である。
- ・スマートICの整備により、切川バイパス周辺へのアクセス性が向上し、安来市が進める人が集まるまちづくりの推進に大きく寄与することが期待される。



安来市総合文化ホール アルテピア

- ・安来スマートIC（仮称）が整備されることで、**高速道路から切川バイパス周辺の将来市街地へのアクセス性は劇的に向上する。**
 - ・周辺の事業用地の開発と安来スマートIC（仮称）の整備により、**将来市街地を中心とした安来市全体の産業の活性化を期待**している。
- （資料：商工会議所 ヒアリング結果（R5.2））

スマートインターチェンジ※¹の新規準備段階調査着手箇所

別添④

スマートインターチェンジの名称(仮称)※ ²	検討位置	路線名
おおたま 大玉	あだち おおたま 福島県安達郡大玉村	東北縦貫自動車道弘前線(もとみや にほんまつ 本宮IC～二本松IC間)
おわりいちのみや 尾張一宮PA	いわくら 愛知県岩倉市 いちのみや 愛知県一宮市	中央自動車道西宮線(こまき いちのみや 小牧IC～一宮IC間)
かしわら 柏原	かしわら 大阪府柏原市	近畿自動車道天理吹田線(ふじいでら かしば 藤井寺IC～香芝IC間)
しんぐう 新宮	かすや しんぐう 福岡県糟屋郡新宮町	九州縦貫自動車道鹿児島線(こ が ふくおか 古賀IC～福岡IC間)

※¹ スマートインターチェンジとは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、専らETCを搭載した車両が通行することを目的としたインターチェンジです。

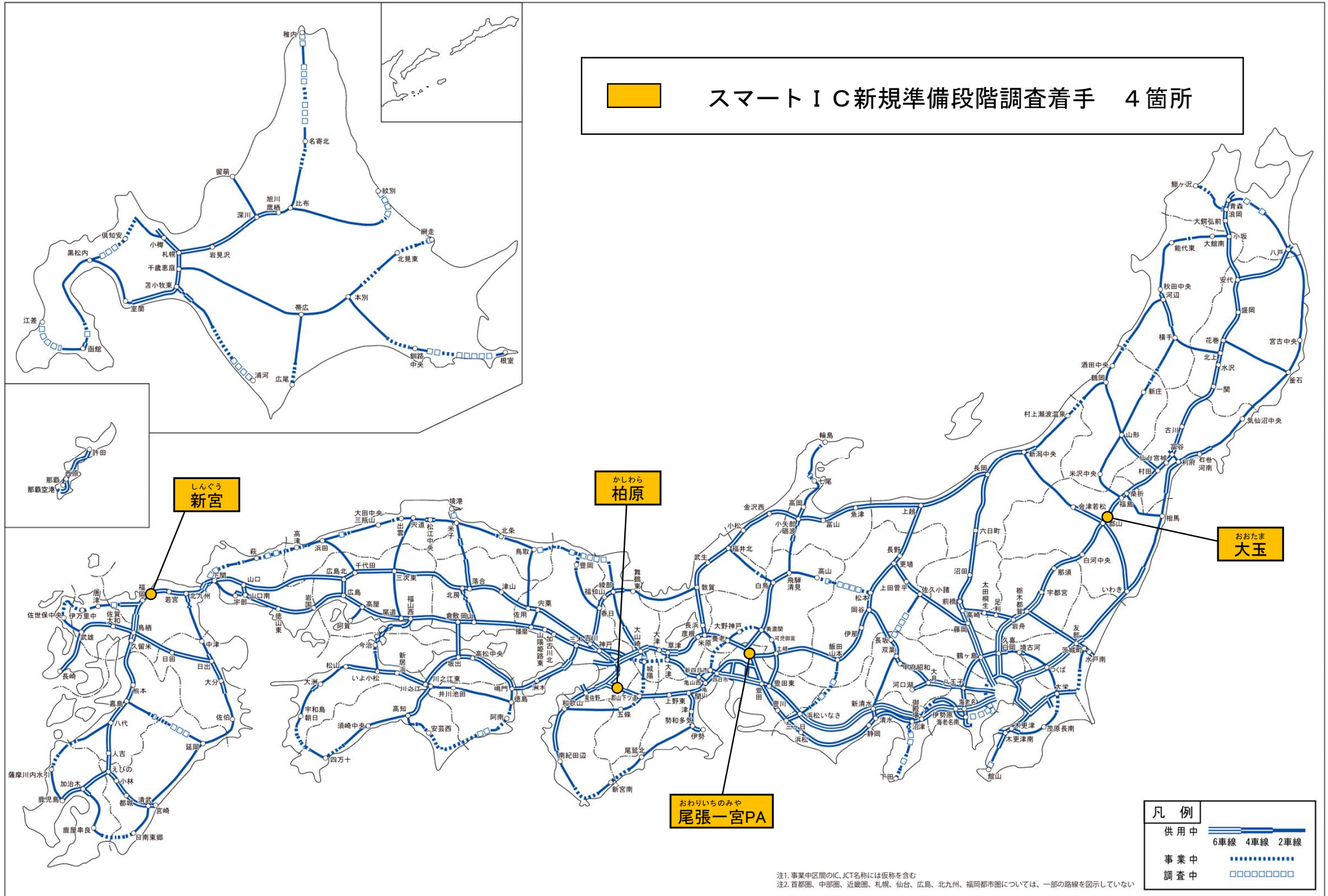
※² スマートインターチェンジの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定されます。

スマートインターチェンジの新規準備段階調査着手箇所図

別添④



スマートIC新規準備段階調査着手 4箇所



< スマートインターチェンジ とは >

○スマートインターチェンジは、通行可能な車両をETCを搭載した車両に限定しているインターチェンジ

[SA・PA接続型]

→サービスエリアまたはパーキングエリアに接続

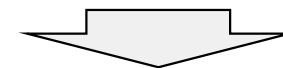
[本線直結型]

→高速道路本線に接続

○ETC専用のため、料金徴収施設を集約する必要がなく、コンパクトな整備が可能

○料金徴収にかかる人件費も節約可能

我が国の高速道路のIC間隔は平均約10kmで、欧米諸国の平地部における無料の高速道路の2倍程度



平地部でIC間隔を欧米並みの約5kmとなるよう整備を推進

開 通	160箇所
事業中	47箇所
準備段階調査	7箇所
(令和6年6月10日時点)	

< 負担区分 >

